

経済産業部

仕事の
窓

3

識名園伝統的工芸品ウィーク

～伝統的工芸品月間国民会議沖縄地区大会～

Point

経済産業部は、「伝統的工芸品月間」の11月に世界遺産識名園で沖縄の伝統的工芸品産業の振興を図るため、式典、イベントを4日間にわたって開催しました。

経済産業省では伝統的工芸品産業の振興を図るため毎年11月を「伝統的工芸品月間」と定め、全国で様々な式典・催し物等を開催しています。

伝統的工芸品とは伝統的技法・技術で作られる歴史のある工芸品で、沖縄では十三品目（全国三位）が経済産業大臣から指定されています。

今年度の沖縄地区大会は、昨年度に引き続き、世界遺産に登録された名勝「識名園」において、11月8日（木）から11日（日）までの四日間、「識名園伝統的工芸品ウィーク」として沖縄の伝統的工芸品を御殿（ウドン）にて常設展示しました。

伝統的工芸品月間沖縄地区大会の式典においては、伝統的工芸品産業の功労者表彰、図画・作文コンクール表彰が行われ、

交流会においてはぶくぶく茶会が行われました。



今回の「識名園伝統的工芸品ウィーク」では、戦争等の影響により技術・技法が一時途絶えてし

まったものの、地元関係者の努力と熱い思いにより、100年ぶりに復元された「知花花織」や日本国内では同じ工程で織られている織物は殆どなく、沖縄県内ではうるま市石川伊波だけでしか見られない「伊波メンスー」といった幻の工芸品も展示しました。

また、「新工芸品の展示会」では、伝統的工芸品の製作技法を基に開発・商品化された、琉

球びんがたの日傘や首里織をあしらったランドセル、琉球漆により装飾された万年筆・ボールペン、琉球漆と琉球ガラスのコラボレーションによるワイングラス等、伝統的工芸品をもっと身近で気軽に活用してもらえようというアイデアとデザイン力に優れた「新工芸品」を展示しました。

ウィーク期間中、見学に訪れた那覇市内の小学生は、展示された伝統的工芸品の技法等についての説明を熱心に聞きながら伝統的工芸品にふれあい、体験交流お茶会では、ぶくぶく茶会の体験もしました。また、「喜如嘉芭蕉布の糸つむぎ会」では高校生が地道で繊細な作業を体験しました。その他、琉球びんがたの製作体験コーナーや伝統的工芸品産地組合の映像紹介等、

多彩な催し物を行いました。

地元・観光客・小中高の児童生徒など四日間の入園者数は、約2,300人となり、連日、多くの来園客で賑わいました。

時代を超えて沖縄県民が守り育てて来た伝統的工芸品は、沖縄の宝です。このウィークは、多くの方々にその素晴らしさを理解していただき、さらなる発展の契機になったものと思います。

